



〒632-8510 奈良県天理市柚之内町1050 TEL.0743-63-9006 (広報課 直通)

天理大学 検索  <https://www.tenri-u.ac.jp/>



天理大学生の

成長ストーリーBOOK
My growth story 2026

なりたい“私”へ。
未来へのヒントを
見つけよう!

なりたい“私”へ。

天理大学生の成長ストーリー

高校までと違い、いろんなことを自分自身で決めていかなければいけない大学生活。

自分は将来どうなりたいんだろう…

自分はどんな大人になっていくんだろう…

未来に対する不安やとまどいがあっても当然です。

ここで紹介する学生たちは

めざす未来も、なりたい自分も、それに向けての学び方もさまざまです。

どんな時に悩み、どう乗り越えたのか、その先の夢に向かってどんな成長をしているのか。

天理大学生それぞれの成長ストーリーから未来へのヒントを見つけよう。

INDEX

学部・学科紹介	P.3
天理大学生の成長ストーリー	
挑戦を重ね続け掴んだ日本一! 文武両道で磨いた継続力	P.4
実践で培った観察力で、地域に恩返しできる看護師へ	P.5
実習や白血病治療薬の研究への挑戦を通して深めた、臨床検査への探究心	P.6
宗教学を学び、学びを社会での実践へと結びつけたい	P.7
国文学・国語学を学び、人を育てる教師になりたい	P.8
暮らしの中の「当たり前」を学問に変えた4年間	P.9
臨床心理を学び、子どもの居場所になれる心理師へ	P.10
地域活動と生涯教育を学び、奈良のまちづくりに貢献したい	P.11
社会福祉の実習経験を重ね、医療と地域を結ぶ存在へ	P.12
韓国留学経験を活かし、教員として日韓を繋ぐ架け橋に	P.13
中国語を学び、挑戦し続ける国際人へ	P.14
生きた英語を学び、誰かの背中を押せる教師になりたい	P.15
国際文化を学び、合気道で全国優勝を目指した4年間	P.16
柔道と留学、文武両道で見つけた自分らしさ	P.17
日本語と卓球を極め、日中卓球交流の架け橋へ	P.18

体育学部

体育学科

体育やスポーツの素晴らしさを伝え、笑顔あふれる社会をつくる人に。

保健体育科教員免許状取得のためのカリキュラムを柱としており、多様な実技が学べるなど、現場で役立つ内容が強みです。本学部で身につくコミュニケーション力・プレゼンテーション能力はさまざまな進路で役立ちます。リーダーとして組織を牽引し、地域社会においてコミュニティの醸成や生涯スポーツ、レジャー教育に携わる人に成長できます。

私の成長ストーリー



P.04 寺本 葵さん

医療学部

看護学科 / 臨床検査学科

人に尽くすことを自らのよろこびとする。「健やか」の実現を支える医療人に。

天理よろづ相談所病院との連携による実践教育を実施しています。先進医療の設備を持つ病院での実習を通じ、全人的医療とチーム医療を学びます。実習先が別所キャンパスに隣接している点も魅力です。医療人に求められる人間性や倫理観の養成に力を入れており、コミュニケーション演習など、対人能力を磨く科目も多数用意しています。

私の成長ストーリー



P.05 中谷 真奈さん



P.06 樋口 誠史さん

人文学部

(旧:人間学部・文学部)

宗教学科 / 国文学国語学科 / 歴史文化学科 / 心理学科 / 社会教育学科 / 社会福祉学科

人文学こそ、究極の「実学」。教養を力に、地域社会と共創できる人に。

幅広い知識を修得しながら専門的な内容を段階的に学んでいきます。教養は、より良い社会に貢献していくための知的な「基礎体力」となります。本学部の学びは、時にキャンパスを飛び出し、地元の商店街と連携して商品を開発したり、養護施設・司法施設でボランティア活動を行ったり、実践を通じて、地域社会をつなぐ。そんな「地域創“縁”」の学びが魅力です。

私の成長ストーリー



P.07 川口 喜一郎さん



P.08 平山 理紗さん



P.09 足立 光綺さん



P.10 仲井 豪さん



P.11 門内 緋里さん



P.12 都築 ひかりさん

国際学部

韓国・朝鮮語学科 / 中国語学科 / 英語学科 / 外国語学科
 タイ語・インドネシア語・ドイツ語・フランス語 /
 ロシア語・スペイン語・ブラジルポルトガル語 各コース /
 国際文化学科 / 日本学科(留学生対象)

他者を受容する心と語学力で、多文化共生時代の「架け橋」に。

1925年からの長い歴史のなかで培ったノウハウのもと、多様な言語を専門的に学べる学部です。外国語能力を武器に社会に貢献する力を身につけます。また、豊富なチャンスと奨学金が魅力の留学制度のもと多くの学生が留学を経験します。海外語学実習をはじめとする学部独自の国際プログラムも充実。海外で「マイノリティー」となる経験が、多様性や異文化を受け入れる力を磨きます。

私の成長ストーリー



P.13 松岡 祐奈さん



P.14 佃 柚希さん



P.15 山崎 愛美さん



P.16 政田 歩海さん



P.17 織田 真歩さん



P.18 王 藝珏さん

体育学部 体育学科

挑戦を重ね続け掴んだ日本一！ 文武両道で磨いた継続力

わたしが天理大学を選んだ理由

高校時代の担任の先生が天理大学出身で、その話を聞く中で天理大学に興味を持ちました。体育学部では実技だけでなく理論面からもスポーツを深く学べたり、競技現場に直結した専門的な知識を身につけられる点に魅力を感じました。また、陸上競技部の充実した環境に加え、他競技の学生と交流できる環境があることも決め手となりました。競技力だけでなく、人としての視野も広げたい。その思いを胸に進学を決意しました。

わたしの4年間の成長プロセス

1 年次 環境の変化と向き合った挑戦の始まり

1年次は陸上競技部での活動に全力を注ぎました。高校とは異なる練習量や質、競技への向き合い方に戸惑い、思うように結果が出ない時期も。生活リズムや人間関係にも変化があり、環境に慣れること自体が大きな課題でした。そんな中、日々のトレーニングに目的を持ち、自分の課題を一つずつ整理しながら取り組み続けました。その積み重ねが実を結び、秋には自己ベストを更新。あきらめずに継続することで努力は必ず力になると実感した瞬間でした。

2 年次 競技ができることの意味を知る

2年次は体調不良や感染症の後遺症により、試合にほとんど出場できない1年となりました。出場できた試合はわずか一度。競技を続けられるのかという不安が頭をよぎりました。それでも無理を重ねるのではなく、自分の身体と丁寧に向き合うことを選択。その日の体調に応じてトレーニングの内容を調整し、長期的な視点で競技を考えるようになりました。「競技ができることは当たり前ではない」。その気づきが、私の競技観を大きく変えました。

3 年次 仲間との存在で気づいた「結果を出す」意味

秋のシーズン、3年生として最後の試合で全日本学生選手権の参加標準記録を突破することができました。何より心に残っているのは、結果以上に仲間が自分のことのように喜んでくれたことです。苦しい時期を共に過ごしてきた仲間との存在に支えられていたことを実感。陸上は個人種目であっても、一人では決して成り立たない競技です。自分のためだけでなく、支えてくれる人への感謝を形にすることが、結果を出す本当の意味だと気づくことができました。

4 年次 あきらめず続けた先に見えた景色

集大成としての4年次は、「あきらめずに続けること」を体現した1年でした。結果が出ない期間が続き、競技をやめようと思ったことも。それでも積み重ねてきた時間と仲間の支えを信じ、できることを一つずつ丁寧に継続しました。その結果、シーズン中に大幅に自己ベストを更新し、日本一という大きな結果も得ることができ、継続した努力が形になる喜びをあらためて実感。競技を通して培った継続力と冷静さは、これから社会に出て私の大きな支えになると信じています。

寺本 葵さん 4年次生

兵庫 / 滝川第二高校 卒業

★ My Favorite! //

陸上競技部

一緒に練習し、支えてくれた仲間と過ごした大切な日々

競技場

結果に関わらず常に走り続けた思い出の場所です

充実した施設

スポーツの学びや、競技力向上に最適な環境です



第109回日本陸上競技選手権大会
女子400m優勝(53秒14)



1日のスケジュール(1年次 / 授業がある日)



My growth point 結果に左右されず一つひとつ課題に向き合うことで、継続する力を身につけた。

医療学部 看護学科

実践で培った観察力で、地域に恩返しできる看護師へ

わたしが天理大学を選んだ理由

幼い頃から人のお世話をすることが好きで、その思いを原点に看護師を目指すようになりました。天理よろづ相談所病院で生まれ、天理の地で育ったということもあり、卒業後は生まれ育った地域に恩返しができる看護師になりたいと考えていました。オープンキャンパスで整った実習環境を目にしたことも進学を決め手に。大学のすぐそばに病院がある環境で、医療の知識と技術の両面を確実に身につけ、自分を成長させたいと思いました。

わたしの4年間の成長プロセス

1
年次

基礎を積み重ね、技術の難しさを知る

1年次は解剖学や生化学、看護学など医療にかかわる基礎科目を中心に学びました。後期からは演習も始まり、ベッドメイキングや基本的な看護技術の一つひとつ実践。事前学習では理解できているつもりでも、実際に体を動かすと想像以上に難しく、知識と実践の差を痛感しました。学生同士で看護師役と患者役を経験する中で、患者の立場から感じる不安や安心感にも気づくことができました。技術だけでなく、心に寄り添う視点の大切さを学んだ1年でした。

2
年次

初めての受け持ち患者との出会い

母性看護・精神看護・小児看護など専門領域の学習が始まり、毎日が新しい発見の連続でした。そして初めての基礎実習。患者さんとの関わり方が分からず、不安でいっぱいのスタートでした。それでも2週間、今の自分にできることを実践し、最終日に患者さんから「これからも頑張るね」と声をかけていただき、もっと知識を増やし、技術を磨いていこうとあらためて感じました。担当の先生が親身に支えてくださり、安心して挑戦できた経験は、大きな自信へとつながりました。

3
年次

領域別実習で磨かれた観察力

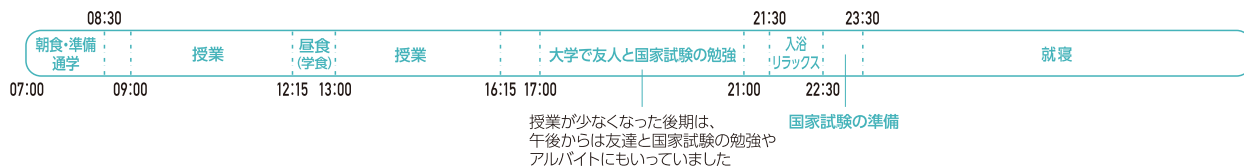
3年次は成人病棟、精神病棟、産科病棟、介護施設など長期の領域別実習が続きました。患者さん一人ひとりに異なる背景や価値観があることを体感し、「その人らしさ」に目を向ける看護の重要性を学ぶことができました。悩んだときは自分の考えを言葉にし、先生や担当の指導者の方から助言を受ける。その対話の積み重ねが視野を広げてくれました。受け持った患者さんが笑顔で「ありがとう」と伝えてくださった瞬間は、今も心に残る宝物です。

4
年次

知識を統合し、国家試験へ挑む

4年次はゼミ活動と国家試験対策に本格的に取り組みました。看護研究では、論文検索や文献読解など初めての経験に戸惑いながらも、先生の個別指導を受けながら一歩ずつ前進。災害看護や医療安全といった新しい分野も学び、これまでの知識が線となつてつながる感覚を得ることができました。連日、友人と学校に残って勉強し、支え合いながら国家試験に挑戦。4年間で培った観察力と継続力を胸に、これからは地域に安心を届けられる看護師として歩んでいきます。

1日のスケジュール(4年次/国家試験前)



My growth point 患者さんの表情や言動を観察する実習体験から、根拠をもって行動する力を身につけた。

医療学部 臨床検査学科

実習や白血病治療薬の研究への挑戦を通して深めた、臨床検査への探究心

わたしが天理大学を選んだ理由

高校時代、進路に迷う中で医療職に就きたいと考え、臨床検査技師という職業を知りました。生物分野に興味があり、人を支える仕事に携わりたいという思いもあった私にとって、まさに理想的な職種でした。数ある養成校の中で天理大学を選んだのは、連携する天理よろづ相談所病院で実習ができる環境と高い国家試験合格率に魅力を感じたからです。間近で学べる環境は、将来像を具体的に描く大きな決め手となりました。

わたしの4年間の成長プロセス

1
年次

基礎力と時間管理を身につけた1年

1年次は医療系基礎科目を中心に学びました。導入的な項目が中心でしたが履修する科目数や筆記試験数が4年間で一番多く、試験前は勉強時間の確保に追われました。アルバイトとの両立もあり、空き時間を活用して計画的に学習する工夫を重ねました。試験日から逆算して1年間の学習スケジュールを計画するなど、自分なりの時間管理法を確立。接客のアルバイトでは対応力も身につけることができ、学内外での経験が確かな土台となりました。

2
年次

実習で学んだ「正確さ」の意味

2年次からは生理機能検査学や病理学など専門科目が本格化し、学内で実習も増加。検査はわずかな操作ミスが結果を左右するため、器具の配置や手順を徹底的に確認。失敗した際には原因を分析し、再発防止策を考察する姿勢を徹底することで「正確に」対応する重要性を学びました。グループ活動を通して、協働しながら物事を推進する力を培いました。また、多様な課題を整理・統合する中で情報整理力が向上し、技術とともに思考力も高まりました。

3
年次

臨地実習で知った現場の責任

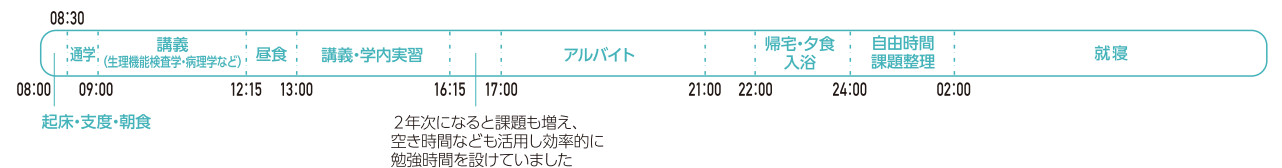
3年次後期から約4か月間、天理よろづ相談所病院で臨地実習を経験しました。各部署を1週間ごとに回り、臨床検査技師の業務を間近で学習。検査補助や患者さんへの説明も担当しました。講義で学んだ知識が現場でどう活かされているかを実感すると同時に、超音波や心電図などの生理機能検査では患者さんとの信頼関係が不可欠であることも学びました。検査技術だけでなく、コミュニケーション能力の重要性を強く意識するようになりました。

4
年次

研究で見つけた探究する力

4年次は卒業研究と国家試験対策に注力。『前骨髄球性白血病治療薬ATRAの作用機序解明』をテーマに研究を進めました。計画立案から実験、結果考察まで主体的に取り組む中で、新たな疑問が生まれ、その都度目標を再設定。この分野の奥深さと面白さを改めて実感しました。国家試験対策にも早期から取り組み、継続的に知識を定着させる事を意識していました。卒業後は大学院へと進学し、より専門的な研究を極め、医療を通して社会に貢献していきたいです。

1日のスケジュール(2年次/授業がある日)



My growth point 授業や実習で計画力と探究心を磨き、臨床と研究をつなぐ視点を身につけた。

樋口 誠史さん 4年次生

奈良/天理高校 卒業
★ My Favorite! // 研究室の先生 研究の基礎から卒論の指導まで熱心に指導していただいた恩師
学科の先生たち 科目の指導だけでなくいろんな相談に乗ってくれます
学科の友人たち 国家試験対策など互いに支え合った最高のチームでした!



人間学部 宗教学科 (現:人文学部 宗教学科)

宗教学を学び、 学びを社会での実践へと結びつけたい

わたしが天理大学を選んだ理由

実家が教会で、幼い頃から天理教の教えを身近に感じながら暮らしていました。高校進学を機に「おぢば」のある天理で生活を始め、さらに学びを深めたいと考えるように。高校生活でも教養に触れてきましたが、まだ知らないことがあるという思いが強く、より専門的に学べる環境を求めて天理大学を志望しました。また、高校から続けていた雅楽を本格的に学び続けられる環境が整っていることも、大きな決め手となりました。

わたしの4年間の成長プロセス

1
年次

宗教の基礎を広く学んだ出発点

1年次は、天理教をはじめとする諸宗教の基礎を学びました。天理教学はこれまでの生活の中で親しんできた内容でしたが、キリスト教や仏教、イスラームについては断片的な知識しかなく、新鮮な驚きの連続でした。それぞれの宗教が持つ歴史や思想に触れることで、世界の広がりを実感。また、雅楽部での活動にも力を注ぎました。部員が少なく存続の危機にあった環境の中で、1年次から本番の舞台に立つ経験を重ね、責任感と自覚が芽生えた1年となりました。

2
年次

原典と向き合い、視野を広げる

2年次では、天理教原典学の授業で三原典について学びました。とくに「おふでさき」の読解では、おふたを当時のお道のお出来事と照らし合わせながら丁寧に読み進めました。背景を知らずに読むと難解に感じる文章も、時代や状況を理解することで意味の広がりや生みだされることを実感しました。また、この年から矯正・保護支援課程を履修。刑務所や少年院、自立支援ホームなどの施設見学では、現場の雰囲気や直に感じることが出来る貴重な経験となりました。

3
年次

客観性と対話を学んだゼミ活動

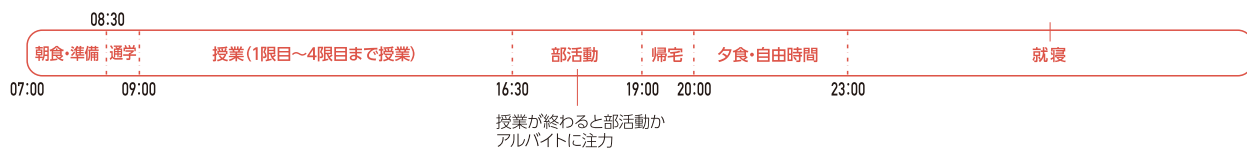
3年次から始まったゼミでは、宗教学を基盤に「客観的に宗教を捉える姿勢」の重要性を学びました。自身の信仰的背景があるからこそ、距離を取り、学問として考える難しさや面白さを実感。またこの年から雅楽部では部長を務めることになり、演奏だけでなく、ひとをまとめ、調整し、組織を動かす難しさを学びました。人見知りだった自分が、対話を重ねながら部を支える立場となったことで得ることができたコミュニケーション力はかけがえのない財産です。

4
年次

「聖なるもの」を問い続けた卒業論文

4年次は、「聖なるもの」をテーマに卒業論文へ取り組みました。あらゆる宗教に共通する根源的な概念であり、人間と聖性との関係を文献から探究しました。読書が得意ではなかった自分にとって、多くの専門書を読み込み続ける作業は決して容易ではありませんでしたが、問いに向き合い続ける中で集中力と読解力を養うことができました。自らテーマを定め、最後まで書き上げた経験は、大学生活の集大成。学問として宗教を探究した確かな手応えがあります。

1日のスケジュール(1年次)



My growth point 宗教学の学びと雅楽部での経験を通し、挑戦する力と責任感を身につけた。

文学部 国文学国語学科 (現:人文学部 国文学国語学科)

国文学・国語学を学び、 人を育てる教師になりたい

わたしが天理大学を選んだ理由

高校時代に会った国語科の先生の影響で、教員を志したいと考えていました。その恩師が天理大学出身であったこともあり、次第に天理大学への進学を意識するようになりました。決定打となったのはオープンキャンパスです。先生方と好きな本について語り合う機会があり、その語りの深さに圧倒されました。ここでなら専門的に国語を学べる。そう確信し、入学を決めました。教員免許取得への手厚い支援体制も大きな魅力でした。

わたしの4年間の成長プロセス

1
年次

基礎を固め、文学の世界へ踏み出す

定時制高校出身ということもあり、専門的な授業についていけるか不安を抱えての入学でした。しかし1年次は基礎から丁寧に学ぶ授業が中心で、その不安はすぐに払拭されました。文学史や古典、近現代文学など幅広く学ぶ中で、興味の幅が大きく広がっていききました。先生方の熱意ある講義は刺激に満ち、学ぶことそのものが楽しいと感じられる日々。授業後に友人と学生ホールで過ごした時間もかけがえのない思い出です。学びの土台を築いた1年でした。

2
年次

専門性と挑戦が広がった転機

専門科目が増え、1年次に芽生えた関心をさらに深める1年となりました。発表形式の授業も増え、資料作成やプレゼンテーションの力を身につけました。中でも印象的だったのが「近代文学講読」の授業です。作品の内容理解ではなく、物語の構造そのものを読み解く視点を学び、本の見方が大きく変わりました。また、天理大学祭をきっかけに学科会活動にも参加。その他、天理教の学生団体「よふぼく会」へと活動の場を広げ、課外活動が大学生活の大きな軸になりました。

3
年次

責任ある立場で広がった視野

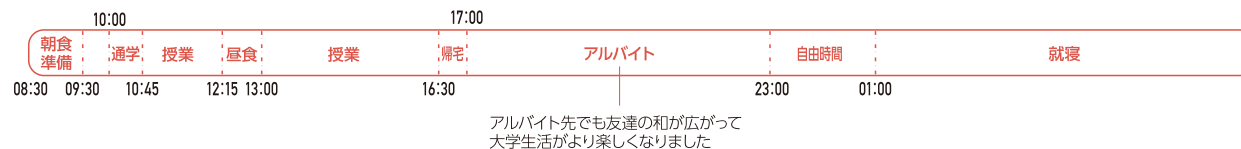
卒業論文をみすえた専門分野ごとの演習が始まり、自ら問いを立て、文献を探し、考察を深める力が求められました。思うように進まない時期もありましたが、少しずつ研究の方向性が見えてきました。教職課程では模擬授業が始まり、授業準備の大変さと教える難しさを体感。課外活動では学科会会長や「よふぼく会」副会長などを務め、多くのひとと関わる機会に恵まれました。夏期伝道実習や天理大学祭での活動では大きな達成感を感じることができ、自信へとつながりました。

4
年次

教育実習と自治会で得た実践力

4年次最大の学びは教育実習です。理想通りにいかない授業、毎日の準備に追われる日々。それでも教員という仕事の現実に触れ、自分がめざす教師像を見つめ直す貴重な機会となりました。また自治会活動では天理大学祭運営の中心として奔走。協賛依頼や企業対応など未知の業務にも挑戦し、仲間や職員の方々に支えられながら困難を乗り越えました。現場で学んだ責任感と実践力を胸に、これからは生徒一人ひとりに寄り添える教員として成長し続けていきたいと考えています。

1日のスケジュール(1年次)



My growth point 教育実習を通して、生徒の立場に立って考える教員としての基礎力を身につけた。

平山 理紗さん 4年次生

奈良/天理高校 卒業

★ My Favorite!

天理大学祭

学科ごとの参加で学生が主役です!

天理の景色

四季折々の豊かな自然を感じることができます

一緒に学んだ仲間

一生仲良くしたいと思える仲間と出会えました



文学部 歴史文化学科考古学・民俗学研究コース (現:人文学部 歴史文化学科)

暮らしの中の「当たり前」を 学問に変えた4年間

わたしが天理大学を選んだ理由

高校3年生の夏に参加したオープンキャンパスが、天理大学を志望するきっかけでした。スポーツに力を入れている大学という印象が強かったものの、天理参考館や国宝を所蔵する天理図書館を見学し、文化や歴史を深く学べる環境が整っていることを実感。大学周辺の穏やかな雰囲気や、県内で自宅から通学しやすい環境も大きな魅力でした。安心して学業に向き合える場所で、自分の興味を深めたいと考え進学を決めました。

わたしの4年間の成長プロセス

1
年次

時間管理を意識し、大学生活の基礎を固める

大学生活が始まり、授業とアルバイトを両立する日々の中で、スケジュールを管理する習慣が身につく。空き時間をいかに有効活用できるかを強く意識するようになりました。高校までとは異なり、自由度が高く自己決定が重要な大学生活に最初は難しさも感じましたが、時間に余裕ができたことをきっかけに、好きな分野に関する資格取得に挑戦。目標を設定し、計画的に学び続ける経験を通して、主体性や継続力といった大学での学びの基礎が身についていきました。

2
年次

課題と向き合い、効率的に進める力を身につける

2年次は履修科目が増え、試験やレポート課題に追われる日々が続きました。複数の課題が重なる場面もありましたが、提出期限や試験日から逆算し、優先順位を決めて取り組むことを意識。各課題にかかる時間を見積もり、淡々と作業を進める中で、課題処理能力が大きく向上しました。また、長期休みには簿記資格に挑戦。独学で難しい内容に向き合いながら、友人と勉強会を重ねることで、理解が深まっていく過程そのものを楽しめるようになりました。

3
年次

就職活動と読書が広げた、新たな視点

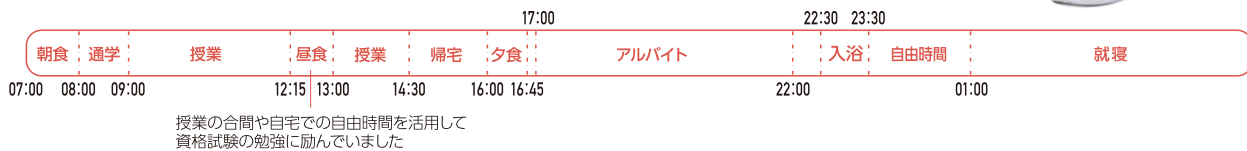
3年次からは就職活動を意識し、自己分析や業界研究に早めに取り組みました。自分の長所や短所、価値観と向き合う中で悩むことも多く、将来について深く考える1年となりました。一方で、同じ学科の友人に勧められた小説をきっかけに、読書の習慣が戻ったことも大きな出来事です。小説を読むことで、物事を多角的に捉える視点が広がり、また心の豊かさを育むことにも繋がり、将来への不安や心配で心がいっぱいだった時期を乗り越えることができました。

4
年次

実践を通して得た自信と、挑戦する姿勢

4年次は就職活動が本格化し、説明会や面接を重ねる中で、自分の考えを整理し、限られた時間で伝える力が磨かれていきました。最初は緊張していた面接も、経験を積むことで落ち着いて対応できるように。また、民俗学のフィールドワークにおける聞き取り調査では、調査項目を明確にすることや、会話の流れを意識した質問ができるようになりました。こうした経験を通して得た自信を胸に、卒業後は「まずは挑戦してみる」姿勢を大切に、何事にも前向きにチャレンジしていきたいと考えています。

1日のスケジュール(1年次)



My growth point 主体性と計画力を身につけ、挑戦を前向きに楽しめるようになった。

人間学部 人間関係学科 臨床心理専攻 (現:人文学部 心理学科)

臨床心理を学び、 子どもの居場所になれる心理師へ

わたしが天理大学を選んだ理由

高校までの生活で悩みを抱えた経験から心理学に興味を持つようになりました。実家から通える範囲で心理学を学べる大学を探中で出会ったのが天理大学。何度かオープンキャンパスに参加する中で、臨床心理学を専門的に学ぶ環境への誇りと熱意を強く感じました。この大学なら心理学を学ぶうえで困ることはないしと確信し進学を決意。4年間の大学生活を通して、「この大学でよかった」と思わない日は1度もありませんでした。

わたしの4年間の成長プロセス

1
年次

新しい世界との出会いで広がった視野

入学当初は知り合いが一人もおらず、不安を抱えた春のスタート。しかし、新しい友人との出会いが価値観を大きく広げてくれました。高校とはまったく異なる講義内容に触れ、多様な理論や考え方を知る日々。心理学の基礎を学びながら、自分自身の考えを見つめ直す時間でもありました。学食で友人とわいわい楽しむ昼休み、アルバイトとの両立を意識した生活リズム。刺激に満ちた1年は、自分の世界を一回り大きくしてくれた時間でした。

2
年次

心理学の奥深さと原点の再確認

心理学の専門科目が増え、学問の深さを実感した1年でした。同じ心理学でも関心の向く分野はさまざま。自分は何を深めたいのかを考える時間が増えていきました。そんな中、不登校時代に通っていた適応指導教室をOBとして訪問。生徒たちと関わる中で、学校生活に悩みを抱えていた自分の姿と重なり合う瞬間がありました。子どもたちの抱える思いに触れ、「力になりたい」という気持ちが明確に。心理師を志す覚悟が固まった大切な転機となりました。

3
年次

支援の現場で直面した最初の壁

先生方の紹介で二つの不登校支援ボランティアに参加。理想としていた支援と、実際の自分の関わり方との間にある差を痛感しました。うまくいかない場面も多く、自分の未熟さを思い知らされる日々。それでも先生方のアドバイスを参考に試行錯誤を重ねる中で「自分なりの支援とは何か」を考え続けました。支援とは正解を与えることではなく、共に考える姿勢なのだ気づいた1年。心理の道へ進むうえでの最初の大きな壁であり、確かな成長の時間でした。

4
年次

自己理解を深め、心理師への覚悟を固める

公認心理師と臨床心理士の資格取得をめざすために大学院へ進学することを決意し、実習や新たなボランティアに挑戦。活動の中で、自分の支援観と行動にズレがあることに気づきました。なぜそうなるのか、感情や思考を客観的に振り返り、試行錯誤していく中で、多くの先生方からアドバイスや課題を示していただき、自分の未熟さと真正面から向き合うことができました。理想の心理師像にはまだまだですが、悩みを持つ子どもたちの居場所のような存在になるため、これからも学び成長し続けたいと思います。

1日のスケジュール(4年次)



My growth point ボランティア活動を通じて、より良い支援の在り方を模索し続ける力を身につけた。

足立 光綺さん 4年次生
奈良/県立 高田高校 卒業
★ My Favorite! //
情報ライブラリー
集中するのに最適! 静かで落ち着くお気に入りの場所
共同研究室
同級生や先生との交流の場です
研究室の行事
研究室メンバーでご飯を食べて親睦を深めるイベント



仲井 豪さん 4年次生
奈良/県立 大和中央高校 卒業
★ My Favorite! //
学科の先生方
親身に相談にのっていただいたり学びを広げてくれました
秋の天理の街並み
秋色に彩られた景色は、何度観ても飽きないほど綺麗です
学科の仲間たち
多様な価値観の友達と交流し自分の考え方が広がりました



人間学部 人間関係学科 生涯教育専攻 (現:人文学部 社会教育学科)

地域活動と生涯教育を学び、 奈良のまちづくりに貢献したい

わたしが天理大学を選んだ理由

高校3年生の夏、卒業生でもあった父の勧めもあり天理大学への進学を決めました。大学で学びたいことを模索する中、大学案内パンフレットで目にした社会教育学(旧:生涯教育専攻)の「地域に出る実践的な学び」に強く惹かれたことも大きな理由です。生まれ育った奈良への愛着や、小学校時代の地域学習の記憶が重なり、地域と人をつなぐ学びを深めたいと考えるようになりました。この場所で自分の可能性を広げたいと思い、入学を決めました。

わたしの4年間の成長プロセス

1
年次

地域の学びと出会い、土台を築く

必修科目が中心の1年でしたが、「生涯学習概論」で学科の基礎をしっかりと学びました。ゼミ活動では放課後に集まる子どもたちと関わる機会があり、地域の中で学びが育まれていく様子を実感。「わらべうたフェスタ」では写真記録係として参加し、地域イベントを支える人々の姿を間近で感じることができました。さらに、ゼミの先輩が活躍する姿に刺激を受け、「自分も挑戦してみたい」と思う気持ちが芽生えた1年。学びの方向性が少しずつ形になっていきました。

2
年次

実践と活動を通じた出会いの広がり

専攻科目が増え、生涯教育や社会教育の専門的な学びが本格化。特講・特論では先生方それぞれの視点から多様な実践例を学びました。ゼミ活動では地域に出る機会が増え、地域の方々と直接対話する中で人々の「地域への愛着」を実感。出会った人との縁を大切にす姿勢に心を動かされ、自分もこの活動を続けたいと強く考えるようになりました。また2年次には高校でもやっていた茶道部に入部し、礼儀作法を改めて見つめ直す時間も得ました。

3
年次

奈良に貢献したいという思いの明確化

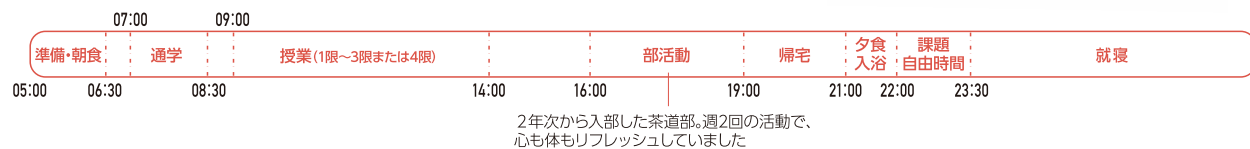
地域実践を重ねながら、就職活動についても考え始めた3年次。活動を通して「自分ができることは何か」「どの分野に関わりたいのか」を考え続けた年となりました。地域の人と人とのつながり、共に学び合う社会教育の意義を実感。ゼミ活動の積み重ねの中で、大好きな奈良に貢献したいという思いがより鮮明になりました。就職活動は、自己理解を深め自分自身の成長を振り返る時間でもあり、これまでの経験が自分の軸になっていることに気づいた大切な1年でした。

4
年次

卒業論文と継承の実感

卒業論文ではインタビュー調査に挑戦。質問の組み立て方や聞き取りの流れ、文章構成など、研究論文の基礎を一から学びました。また、天理本通り商店街のイベントに初めて参加し、先輩や後輩が積み重ねてきた活動を引き継いでいることを実感。地域とのつながりは一代限りではなく、継承されていくものだと気づきました。4年間続けたゼミ活動を通して得た縁と経験を胸に、これからは地域に密着した企業で学びを活かし、奈良に貢献できる存在になりたいと考えています。

1日のスケジュール(2年次/1限からの日)



My growth point ゼミ活動での地域実践の学びから、人と人を繋ぎ地域に貢献したいという軸を見つけた。

人間学部 人間関係学科 社会福祉専攻 (現:人文学部 社会福祉学科)

社会福祉の実習経験を重ね、 医療と地域を結ぶ存在へ

わたしが天理大学を選んだ理由

高校生の頃から福祉分野に関心があり、将来は専門性を身につけて人の生活を支える仕事に就きたいと考えていました。商業高校出身で福祉を専門的に学ぶ機会は限られていたため、社会福祉を体系的に学べる大学を探すようになりました。高校3年生の夏に天理大学のオープンキャンパスに参加し、実習の充実度や国家試験の高い合格実績、精神保健福祉士と社会福祉士のダブル受験が可能な点を知りました。少人数制で丁寧な指導が受けられる環境に魅力を感じ、入学を決めました。

わたしの4年間の成長プロセス

1
年次

不安を乗り越え、学びの基礎を築いた1年

1年次は専門科目と一般教養科目を履修しながら、大学での学びの土台を築きました。制度や専門用語の理解に追われ、福祉を深く学んでいる実感はまだ薄い段階。しかし幅広い分野を学ぶ中で、多角的な視点をもつことの重要性を知りました。入学当初は環境に馴染めるか不安もありましたが、同級生や先輩の温かさに支えられ安心して学べるように。1限から4限まで授業がある日も多く、アルバイトとの両立は大変でしたが、時間管理能力が身についた1年でした。

2
年次

初めての实習で知った「実践」の重み

2年次は相談援助の理論や実践科目が増え、秋には障害者就労支援施設で8日間の実習に参加しました。利用者との関わりに戸惑い、「どのように声をかければよいのか」と悩む日々。それでも授業で学んだ理論を振り返り、相手の立場に立って考えることを意識しました。仲間と悩みを共有し支え合いながら乗り越えた実習は、福祉が制度だけでなく「人と向き合う営み」であることを実感する機会となり、「支援は一人で行うものではない」というこの学びの本質を知ることができました。

3
年次

医療分野との出会いが将来像を描く

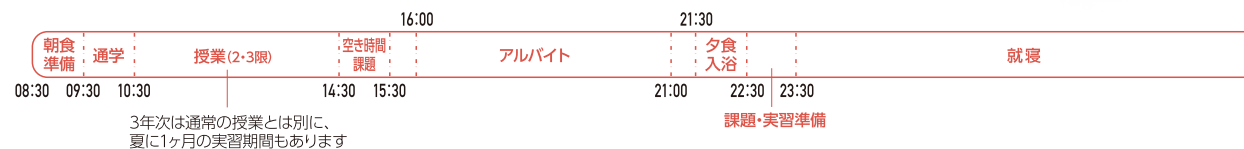
夏には1か月間、一般病院の地域医療連携室で実習を行いました。医療ソーシャルワーカーが患者や家族、医療職、地域資源の間に立ち、生活と医療をつなぐ「橋渡し役」として機能している姿に強く心を動かされました。病気だけでなく退院後の暮らしまで見据える支援。その専門性の高さを実感し、将来は医療分野で働きたいという思いが具体的になりました。理論で学んできたことが現場でできていると実感でき、大きな転機となった年でした。

4
年次

精神保健福祉士実習と国家試験への挑戦

4年次は卒業論文、精神保健福祉士実習、就職活動、国家試験対策と多忙な日々。精神障害のある方との関わりでは難しさを感じる場面もありましたが、相手を尊重し丁寧に関係性を築く姿勢を大切にしました。迷いや不安を一人で抱え込まず、仲間や教員に相談しながら乗り越えた経験は、支援における連携の重要性を再認識する機会となりました。社会福祉実習室で仲間と学び続けた時間を糧に、精神保健福祉士として医療と地域をつなぐ存在を目指して歩み続けたいと考えています。

1日のスケジュール(3年次)



My growth point 授業での理論と現場での実践を往復しながら、連携を大切にする支援姿勢を身につけた。

門内 緋里さん 4年次生

奈良/県立 高取国際高校 卒業

★ My Favorite! //

学科の先生方

とても優しく、気軽に話やすい先生ばかりです

学科の共同研究室

同じ学科の友人たちと楽しく過ごせる場所です

茶道部の部室

先生、先輩、後輩との交流が良い気分転換に



都築 ひかりさん 4年次生

奈良/大和高田市立 高田商業高校 卒業

★ My Favorite! //

ゼミの先生

親身に相談のっていただいた生涯の恩師です

社会福祉実習室

国家試験の勉強で仲間と苦楽をともにしました

情報ライブラリー

貴重な書籍も揃っており勉強するには最適な場所です



国際学部 外国語学科 韓国・朝鮮語専攻 (現:国際学部 韓国・朝鮮語学科)

韓国留学経験を活かし、 教員として日韓を繋ぐ架け橋に

わたしが天理大学を選んだ理由

高校生の頃から大学に進学したら韓国語を専門的に学び、留学にも挑戦したいと考えていました。さまざまな大学を比較していく中で、そうした条件を満たしていたのが天理大学でした。語学・文学・歴史を専門とする先生方に加え、ネイティブの先生からも学べる環境が整っていること、そして少人数制で先生との距離が近いことに魅力を感じました。また、留学制度も充実しており、「ここなら夢を実現できる」と確信し、進学を決意しました。

わたしの4年間の成長プロセス

1
年次

専門的な韓国語の学びとの出会い

入学前から興味があり独学で韓国語を学んでいましたが、学科生としての授業は想像以上に専門的でした。なんとなく理解していた文法や表現の仕組みを理論的に学び直すことで、言語の面白さに気づきました。授業を重ねるごとに新しい発見があり、韓国語への興味はさらに深まっていきました。また、さまざまな価値観を持つ仲間と出会い、自分とは異なる考え方に触れたことで視野も広がりました。語学だけでなく、人との出会いも成長のきっかけとなった1年です。

2
年次

留学準備と挑戦の日々

前半は留学に向けて語学力を高めることに集中しました。韓国の番組や動画配信を視聴し、耳を慣らすことを習慣化。通学時間も有効活用し、単語やリスニングの学習に取り組みました。そして後期から念願の留学へ。初めは不安もありましたが、現地では自ら積極的に話しかけ、友人をつくり、生活を切り拓いていきました。母語話者が使う自然な表現に触れ、韓国語を“使う言語”として体得。異文化理解も深まりました。留学を通して積極性を身につけられたことは私にとって大きな成長でした。

3
年次

TOPIK6級取得と国際交流の実践

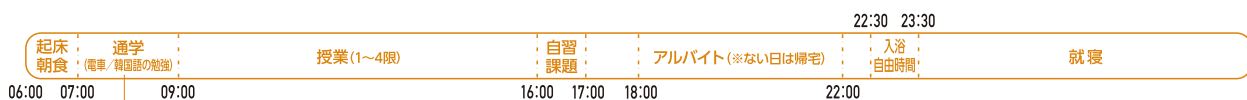
留学後半の目標として掲げていたTOPIK (韓国語能力試験) 6級を取得。1年間の留学生活で培った語学力が目に見える結果につながりました。帰国後は国際交流センター主催の夏期日本語講座にも学生カウンセラーとして参加し、外国人留学生と2週間共同生活を送りました。団体生活の中で文化の違いを楽しみながら、留学で身につけた積極性と語学力を発揮。以前の自分ならためらっていた挑戦にも前向きに取り組めるようになり、「行動すること」が自信へとつながった1年でした。

4
年次

自分と向き合い、夢を形にする1年

就職活動を通して、自分自身と向き合う時間が増えました。これまでの経験を振り返る中で、「国際交流に関わる仕事がしたい」「いつか韓国で日本語を教えたい」という夢がより明確になりました。また、日本語教員養成課程の実習にも挑戦。母語である日本語を教える難しさに何度も壁を感じましたが、諦めずに取り組み、無事に実習を終えることができました。語学を学ぶ側から教える側へ。その視点の転換を得られたことは、私にとって大きな財産になっています。

1日のスケジュール(2年次/授業がある日)



電車での通学時間は、
単語学習や動画視聴に当てて
有効活用していました

My growth point 留学や資格取得への挑戦を通して、語学力と積極性を大きく伸ばした。

松岡 祐奈さん 4年次生

大阪/府立 北かわち阜が丘高校 卒業

★ My Favorite! //

韓国への留学

長年の夢だった海外留学を実現できた

研究棟の共同スペース

快適なソファもある静かな空間で勉強していました

学科の先生

とても明るく楽しい先生たちばかりでした



国際学部 外国語学科 中国語専攻 (現:国際学部 中国語学科)

中国語を学び、 挑戦し続ける国際人へ

わたしが天理大学を選んだ理由

高校の指定校推薦がきっかけで天理大学を知りましたが、決め手となったのは充実した留学制度と豊富な国際交流の環境でした。天理大学には日常的に留学生と交流できる「iCAFé」という学内スペースがあり、実践的に語学を学べる環境に魅力を感じました。また、英語など他学科の授業も履修できる制度が整っていることも後押しとなりました。多様な言語と文化に触れながら学べる環境の中で、自分の可能性を広げたいと考え、進学を決意しました。

わたしの4年間の成長プロセス

1
年次

発音練習と国際経験で育んだ基礎力

1年次は中国語の基礎、とりわけ発音を重点的に学びました。四声の違いで意味が変わる中国語は想像以上に難しく、正確に身につけるために何度も練習を重ねました。先輩から週2回発音指導を受けるなど、自主的に学ぶ姿勢も大切にする中で、徐々に聞き取れる音が増え、積み重ねが何より重要だと実感できました。さらに、国際参加プロジェクトでタイを訪問。現地の生活に触れる中で、価値観の違いや多角的に物事を考える視点が養われました。

2
年次

「とりあえず話す」勇気を得た1年

2年次は留学生チューターとしての活動にも挑戦。台湾人留学生とペアを組み、中国語と日本語を教え合いました。当初は「正しく話せるか」が不安で日本語に逃げてしまうことも。しかし、英語を交えたり試行錯誤を続けていく中で、完璧でなくても伝えようとする姿勢が大切だと気づきました。語学実習で台湾に3週間滞在した際も、「とりあえず話す」ことを目標に挑戦。失敗を恐れずに行動する中で、語学力だけでなく度胸と主体性が大きく鍛えられました。

3
年次

留学で痛感した課題

台湾へ留学し、現地で一人暮らしを経験。留学先では様々な国の留学生と一緒に授業を受け、ペアを組み実践的なコミュニケーションを学びました。周囲の積極的に発言する姿勢に刺激を受け、自分はまだ受け身だと痛感。意識的に発言回数を増やす努力を重ねました。発表では中国語に自信が持てず苦労しましたが、先生や友人の支えに助けられながら乗り越えることができました。困難な状況でも挑戦し続けた経験が精神的な強さと自信につながりました。

4
年次

研究と国際交流の集大成

4年次は、留学中に抱いた疑問をもとに台湾の英語教育制度をテーマに卒業論文に取り組みました。時代に応じて改革を重ねる教育制度の柔軟性に強い関心を持ち、文献調査を進めました。また、留学生対象の夏期日本語講座では学生幹部として運営を担当。留学生と日本人学生の間をつなぎ、時間管理や調整役として奔走しました。人と人をつなぐ役割を担った1年でした。今後も語学力を磨き続け、日本と海外をつなぐ存在として挑戦を続けていきたいと考えています。

1日のスケジュール(4年次/3限から授業の日)



iCAFéで昼食(留学生と交流) アルバイトへ出発

4年次は卒論制作のために
深夜まで勉強していました

My growth point 台湾留学や留学生支援に挑戦し、失敗を恐れない行動力を身につけた。

佃 柚希さん 4年次生

大阪/府立 枚方津田高校 卒業

★ My Favorite! //

国際交流センター室

いろいろなイベントに関わらせてもらいました!

iCAFé

留学生と楽しく交流できるスペースです

学科の先生

卒論や進路のことなど、親身に相談にのっていただけました



国際学部 外国語学科 英語専攻 (現:国際学部 英語学科)

生きた英語を学び、 誰かの背中を押せる教師になりたい

わたしが天理大学を選んだ理由

英語を学びたい、そして将来は英語の教師になりたい。そんな思いを抱きながら進学先を考えていたところ、天理大学には少人数制の授業やネイティブ教員による指導があることを知り、しっかり英語力を伸ばせる環境だと感じ進学を決めました。教職課程の実績があることも大きな魅力でした。高校時代の担任の先生が天理大学出身で、直接話を聞いたことも背中を押してくれました。さらに留学制度の充実にも惹かれ、この環境で学びたいと強く思いました。

わたしの4年間の成長プロセス

1
年次

基礎から積み重ねた英語学習の日々

入学時のクラス分けが一番下のクラスからのスタートとなり、悔しさと同時に、ここから頑張ろうという決意が芽生えました。どの授業にも必ず出席し、課題は妥協せず取り組むと自分に約束。特に必修科目「Vocabulary Building」では、毎週の小テストに向けて学習計画を立て、継続的に勉強しました。提出した計画表に先生が丁寧なコメントを返してくださり、その言葉が励みに、努力が点数に表れた瞬間の喜びは格別でした。基礎を徹底することの大切さを実感した1年でした。

2
年次

教育を学び、教師像を深めた1年

教職課程の授業が本格化し、「教育とは何か」を深く考えるようになりました。教育原理や学校教育社会学では、昭和時代の教育について実際に祖父母に話を聞く機会もあり、日本の教育の歴史や成り立ちを生の声から学ぶことで、今の教育が積み重ねの上にあることを知りました。過去を知ることで現在が見え、未来を考える視点が生まれる。教師になるという夢が、より具体的な目標へと変わっていきました。学び側から、教える立場を想像するようになった転機の1年となりました。

3
年次

留学で広がった視野と行動力

アメリカへの認定留学に挑戦し、言葉が通じる喜びと難しさの両方を体験しました。思いが伝わった瞬間の嬉しさ。一方で、うまく伝わらないもどかしさ。異文化の中で学ぶ毎日は刺激に満ちていました。もともと自分から話しかけることが得意ではありませんでしたが、現地に出会った友人との交流を通して、自ら一歩踏み出すように。友人たちとは旅行にも出かけるなど、新しい環境にも自然に馴染めるようになりました。遠慮より行動。そう考えられるようになったことが、大きな成長でした。

4
年次

卒業論文に込めた学びの集大成

ゼミでは、アメリカにおける黒人差別とスポーツの関係性をテーマに卒業論文を執筆しました。論文を書くのは初めてで、構成や表現に悩む日々。それでも先行研究を読み込み、自分の視点を整理しながら少しずつ形にしていきました。ゼミの先生からは細やかな助言をいただき、その積み重ねが自信へとつながりました。自ら仮説や問いを立て、調べたことをまとめその考察を表現する経験は、これまでのレポートとは異なる重みがありました。大学生生活の集大成として、誇りに思える成果となりました。

1日のスケジュール(1年次)



山崎 愛美さん 4年次生

奈良/大和高田市立 高田商業高校 卒業

★ My Favorite! //

情報ライブラリー

静かな空間で勉強に集中して取り組むことができます

学生ホール

みんなでわいわいお弁当を食べたりくつろげる場所

共同研究室

英語学習の本が豊富で、助手さんに気軽に質問もできます



国際学部 地域文化学科 ヨーロッパ・アフリカ研究コース (現:国際学部 外国語学科・国際文化学科)

国際文化を学び、 合気道で全国優勝を目指した4年間

わたしが天理大学を選んだ理由

高校時代にフランスの歴史や文化、特にフランス菓子の背景にある食文化について学んだことがきっかけで、ヨーロッパ文化への関心が強まりました。ヨーロッパ・アフリカ地域の語学や歴史・文化など多角的に学ぶこと、さらに国際交流の機会が豊富で実際に留学生と関わりながら学ぶ環境も大きな決め手に。また、高校時代から取り組んでいた武道を専門的に学ぶ環境も整っており、ここで自分を高めたいと考え進学を決意しました。

わたしの4年間の成長プロセス

1
年次

文武両道を歩み始めた1年目

1年次は文武両道を目標に掲げ、大学生生活の土台づくりを力を注ぎました。フランス語や異文化理解など、それまで触れる機会の少なかった分野を一から学ぶ日々。思うように理解できず戸惑うこともありましたが、基礎を大切にすることを覚えました。同時に合気道部に入部し、17時から19時までの厳しい稽古に励む毎日。学業と部活動を両立させる中で、時間管理能力と自己統制力が自然と身につきました。部活動をきっかけに交友関係も広がり、コミュニケーション力が磨かれました。

2
年次

結果にとらわれない強さを学ぶ

部活動では試合に出場する機会が増え、自分の実力を試す場が増加。努力しても結果が伴わない時期もあり、焦りや悔しさを感じることも少なくありませんでした。そんな中、先輩から「結果よりも過程を大切にしろ」と声をかけていただき、自分の取り組み方を見直しました。日々の稽古の質を高めることに集中し、失敗を糧にする姿勢へと転換。仲間と切磋琢磨しながら粘り強さを養いました。勉強にも余裕が生まれ、興味のある国際文化分野を主体的に学ぶ姿勢が定着しました。

3
年次

まとめ役として身につけた幅広い視野

3年次には合気道部の副将に任命されました。目標にしていたフランス留学とも重なり、「留学がチームを支える立場として部活動に専念するか」という大きな選択に直面しました。どちらも大切な目標で、将来のことや仲間への責任を何度も考え直しました。最終的に、今しか経験できない仲間との挑戦を選び、全国大会優勝を目指すことを決意。副将として主将を支えながら後輩をまとめる中で、自分のことだけでなく、チーム全体を見て行動する力が身につきました。

4
年次

主将として掴んだ念願の全国優勝

ゼミ活動が中心となり、卒業論文制作のために夜まで大学に残る日も多くなりました。論文作成に向き合う中で、自ら考えることで学びを深める力が身についたと思います。合気道部では主将としてチームを率いる立場に。技術向上だけでなく、一人ひとりと対話を重ねながらチームの結束力を高めていきました。その結果、全日本大会男子団体で優勝を達成。支えてくれた多くの方と喜びを分かち合った瞬間は、大学生生活最大の財産です。武道を通して培ったこの姿勢を、社会人としても生かしていきたいと考えています。

1日のスケジュール(2年次/1限から授業の日)



政田 歩海さん 4年次生

奈良/天理高校 卒業

★ My Favorite! //

ゼミの先生

何事にもポジティブな気分させてくれる恩師です

大学近くのラーメン店

部活終わりに仲間と食べた思い出の味

大学のトレーニング場

充実した施設で好きな時間にトレーニングできます



My growth point 苦手を努力で克服し、海外留学を通じて自ら挑戦できる自分へ成長できた。

My growth point ゼミ研究と主将としての経験を通して、最後までやり抜く責任感と行動力を身につけた。

国際学部 地域文化学科 アメリカス研究コース (現:国際学部 外国語学科・国際文化学科)

柔道と留学、文武両道で見つけた自分らしさ

わたしが天理大学を選んだ理由

幼い頃から柔道に打ち込み、高校卒業後も競技を続けたいという思いがありました。自分が本当にやりたいことは何かと考えたとき、浮かんだのは柔道でした。天理大学は伝統ある柔道部を擁し、実際に練習に参加した際、その厳しくも温かい環境に強く惹かれました。さらに国際学部地域文化学科では多様な文化や価値観に触れられる点にも魅力を感じ、競技と学びの両面で自分を高めたいと考え、進学を決意しました。

わたしの4年間の成長プロセス

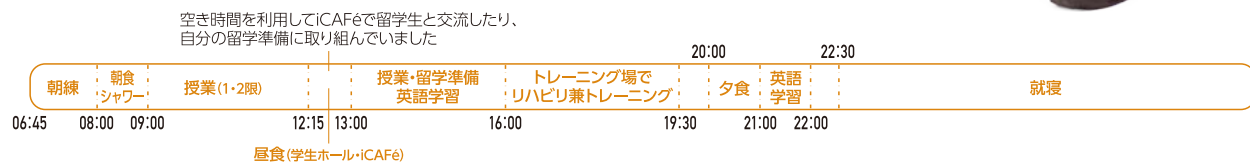
1 年次 葛藤と出会いが広がった視野
人間関係や新しい環境に戸惑い、自分をうまく出せずに悩むこともあり。授業や部活動、寮生活の慣れない環境の中で「自分はどうしたいのか」と立ち止まる日々。友人と語り合った夜や、一人で悩んだ時間も、今思えば大切な経験となりました。一方、柔道部では海外からの留学生と交流する機会にも恵まれました。拙い英語で必死に思いを伝え、共に笑い合った経験から、もっと英語を学び、世界とつながりたいという思いが芽生えました。

2 年次 怪我と向き合い、進む道を見つけた1年
2年次の5月、前十字靭帯を損傷。約1年間リハビリに専念することになりました。競技復帰を目指しながら、「本当に戻れるのか」という不安が募る日々。柔道から離れた時間は、自分自身と静かに向き合う機会となりました。そんな中、以前から興味があった国際交流への思いが高まり、英語学習を本格的に開始。先輩の一言に背中を押され、国際交流センター室を訪れたことが留学決意のきっかけとなりました。怪我は挫折であると同時に、新たな道を示してくれた転機でした。

3 年次 留学で実感した“伝え合う力”
3年次は海外留学に挑戦。渡航当初は英語が聞き取れず、授業もすべて英語という環境に戸惑いました。身振り手振りや表情を使いながら必死に思いを伝える毎日。それでも、先生や友人たちは根気強く向き合ってくれました。2か月ほど経つ頃には少しずつ耳が慣れ、自分から話しかける余裕も生まれました。言語は大切ですが、それ以上に相手と歩み寄る姿勢があれば心は通じ合うことを体感。多様な文化や価値観に触れ、常識が揺さぶられる経験を通して、視野は大きく広がりました。

4 年次 自立の中で育った新たな強さ
帰国後は部活動を引退し、一人暮らしを開始。就職活動とアルバイトに取り組みながら、自立した生活を送りました。初めてのアルバイトでは働くことの厳しさやお金の重みを実感。寮生活では経験できなかった社会の現実にも触れました。就職活動では自分自身と向き合い、揺れる気持ちを整理する時間も必要でした。留学で培った広い視野と対話力は、面接や日常生活の中でも確かな力となりました。新しい環境に飛び込み続けた経験が、今の私の土台になっています。

1日のスケジュール(3年次/留学前・授業がある日)



My growth point 怪我や留学という転機を通して、自分の軸を持ち挑戦し続ける力を身につけた。

織田 真歩さん 4年次生

滋賀 / 県立伊香高校 卒業
★ My Favorite! //
ゼミの先生
いつもポジティブでとても楽しい先生ばかりです
iCAFé
留学生がいて学内で国際交流を楽しめます
情報ライブラリー
落ち着いて勉強に取り組みます



国際学部 地域文化学科 日本研究コース (現:国際学部 日本学科(留学生対象))

日本語と卓球を極め、日中卓球交流の架け橋へ

わたしが天理大学を選んだ理由

子どもの頃から卓球に打ち込み、高校から日本へ留学しました。大学進学で重視したことは「卓球が続けられる環境」であること。その中で、天理大学のパンフレットを目にし、日本の語学や文化について体系的に学べる点に強く惹かれました。大学の中国人の先輩から、実際の大学生活について話を聞いたことも安心材料となりました。卓球と学問を両立させ、そして多文化環境の中で成長できる場所だと感じ、進学を決意しました。

わたしの4年間の成長プロセス

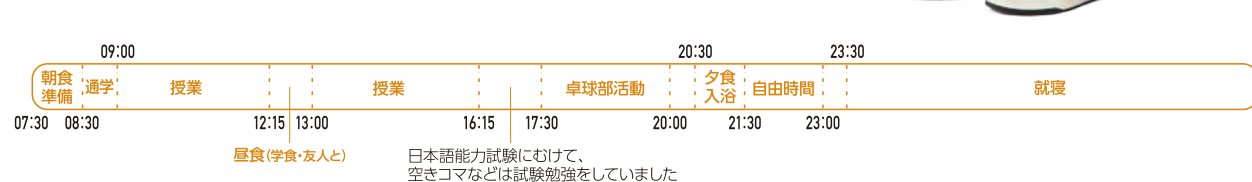
1 年次 日本語に集中し、基礎を固めた1年
1年次は履修14科目のうち9科目が日本語関連科目。語彙や文法、読解や作文に徹底的に取り組みました。授業だけでなく、日常生活や卓球部の活動でも積極的に日本語を使いコミュニケーションをとることで、実践の中で日本語力を伸ばすことができています。その結果、日本語能力試験N2に合格。努力が形になった瞬間でした。部活動ではチームメイトと交流する中で、日本の礼儀や集団行動の大切さも体感。学びと実生活が結びついた、充実の1年でした。

2 年次 文化を“つなぐ”経験を得た挑戦の年
2年次は「ナラロジー」の授業で奈良の歴史や地域文化を学び、日本社会への理解をさらに深めました。そして大きな挑戦となったのが、日中卓球交流合宿でのコーチ兼通訳としての活動です。日本と中国では練習方法や指導の表現が異なり、その違いをどう伝えるかに何度も悩みました。単に言葉を訳すのではなく、背景にある考え方や意図までくみ取って伝えることの難しさを実感。両国の選手の間立ち、理解をつなぐ役割を担えたことは、大きな自信へとつながりました。

3 年次 会長として広がった責任と幅広い視野
3年次には日本研究コース(現:日本学科)の学生会「大和路会」の会長に就任。天理大学祭などの行事では、調整役として他学科の学生とも連携。自ら声をかけ、周囲を巻き込みながら活動を進める経験を重ねました。責任ある立場に立つことで、物事を俯瞰して見る視点が養われました。また、卒業論文の準備も本格化。資料収集やテーマ設定に向き合う中で、論理的に考える力が磨かれていきました。役割を担うことで、自分の行動が周囲に影響を与えることを強く意識するようになりました。

4 年次 研究と国際交流経験を重ね大学院進学へ
4年次は「日本と中国の卓球システムの比較分析」をテーマに卒業論文に取り組みました。技術面だけでなく、日中の育成制度や文化的な背景の違いにも着目し、両国の特徴を整理し論文にまとめることができました。また、外部奨学金のロータリー米山記念奨学生に選ばれ、例会を通じて多様な価値観や社会的視点を学びました。大学院体育学研究科への進学も決まり、今後は日中卓球文化の研究をさらに深めていきたいと考えています。将来は両国の卓球交流を促進する架け橋になりたいです。

1日のスケジュール(1年次/授業がある日)



My growth point 言語と文化を実践的に学ぶことで、多文化理解の姿勢と確かな日本語力を身につけた。

王 藝珏(ワン イージェ)さん 4年次生

熊本 / 慶誠高校 卒業
★ My Favorite! //
ゼミの先生
とても熱心に指導していただきました
国際交流センター室
わからないことがあっても丁寧に対応してくれます
体育館
卓球の練習に打ち込むことで大学生活が充実!

